

軽水炉利用について (見解)

(参考資料①)

2016年12月27日

内閣府の原子力委員会がこんな文書（A4で3ページ）を出しました。
ん？このタイミングに何を言うのかな？
っということで、ちょっと中身を見てみましょう。

はじめに

我が国の原子力発電所において運用されている技術は
全て軽水炉技術であり、
原子力委員会では、
しっかりと足元をみるべきではないかと考え、
本見解をまとめるものである。

原子力委員会の認識

原子力の利用においては、
何よりも国民の安全が最重要であり、
国民の方々から信頼を得ていくとの認識の下、
国や関連機関において、
安全に関する行政体制等が見直され、
自主的安全性向上やリスクコミュニケーション(対話)
といった取組が実施されている

しかしながら、
安全性向上は終わりになきプロセスであり、
より一層の原子力安全を実現して
軽水炉を利用する上で、
留意すべき事項が多々あると考えている。

留意すべき事項

安全性向上～リスクマネジメントの概念～

事業者側と政府側の間で、リスク情報も活用し、対等で建設的な意見交換を透明なプロセスの下で行い、効果的・効率的な安全確保の仕組みを構築していくことが求められる

技術の継承・人材確保

今後、原子力委員会において、さらに検討を進め、見解を取りまとめることとする。

産業と研究機関・大学の連携への対応

産業界と研究機関・大学をまたぐようなネットワークや、省庁横断的な体制の構築等、早急に仕組み作りを検討すべき

平和利用

我が国の着実なプルトニウムの利用については、軽水炉を利用したプルサーマルでの対応が現在では、唯一、現実的な手段である。

最後に一言

これって、こう言ってませんかねえ。。。相当、独断と偏見が入りますが、

- 今後も”ずっと”軽水炉を使っていくに当たって気になることを言っとくよ。
 - 一つ目 リスク評価するだけじゃなくて、ちゃんと実態に反映させないとダメ
 - 二つ目 人材確保はやバイね。これは後でしっかり考えよう
 - 三つ目 もっと電力会社、国、大学ががつつり組んで新しい炉（。。あ、言っちゃった）の研究しないとダメじゃん
 - 四つ目 核燃サイクルは当分無理っぽい（。。あ、また言っちゃった）んで、他の国からプルトニウムについてガタガタ言われたいためには軽水炉でバンバン燃やすしかないっしょ。
- 今年見直すエネルギー基本計画ではこの辺のこと考えて、新增設についてもよろしく。

原発ありきで話が始めちゃうのが最大の問題なんです。本当は、これを変えるには政治を変えるしかありません。

さて、そこを置いたとしても、今回の見解で決定的に欠けているのは廃棄物の話です。

これは原発の最大級の課題のはずですが、全く触れられていません。

結局、この見解は、新增設もしながら今後もずっと軽水炉を動かしていきにはどうすればいいのか？を、

”廃棄物の問題を無視して”考えた結果に見えます。

こうやって役人とその役人が選んだ有識者によって、本質的な問題を無視したまま、外堀がドンドン埋められています。